



## 新たな時代に向けた持続可能な『コミュニティ活動推進行動計画』がスタート！ 今後10年間の取組、全35項目を策定

コミュニティが抱える課題の解決、共助の再構築による持続可能なコミュニティのための行動計画が策定されました。実現に向けて取り組む方向性についてコミュニティ、行政がそれぞれ検討を進めます。

### 新設された推進会議が始動

日立市コミュニティ推進協議会が、市とともに策定を進めていた「日立市コミュニティ活動推進行動計画」が完成し、「組織・活動の活性化・透明化」、「協働体制の強化」、「全世代の居場所づくり」を三本柱とした全35項目の取組をまとめました。

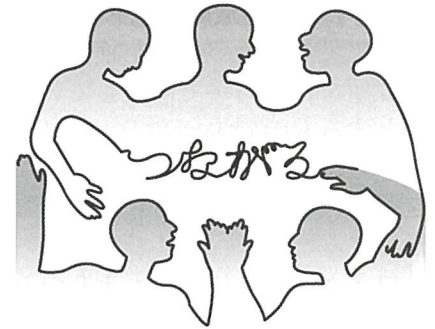
市の関係課所長会議とコミュニティ推進協議会が一体となり、「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち ひとたち」の実現のため、「つながる」をキーワードに、10年後の目標・着地点を目指したもので、今後はこの計画に基づき、具体的な取組を推進していきます。

推進に当たっては担当部署を明確にし、効率アップを図るために、

取組の内容に応じて次のように進めます。

- (1)コミュニティ推進協議会内に推進会議を新設するもの  
…コミュニティ持続のための人材の発掘・活動の再点検・コミュニティ憲章の策定など10項目
- (2)各コミュニティが進めるもの  
…コミュニティプラン・マップの改訂など5項目
- (3)市が主体的に進めるもの  
…コミュニティ活動アプリポイント制の導入・市職員の積極的な地域活動への参画など20項目

今回新設する推進会議では、各コミュニティから推薦を受けた46名が8つの会議に所属し、検討を重ねていきます。進め方の特徴は、12月までに活動内容をまとめ、令和5年1～2月に推進状況の評



価・改善を行い、次年度計画に反映させ、スピードアップすることがねらいです。

各推進項目の具体化、実行、検証、改善(フィードバック)を市とコミュニティが協働で実施することで、市内全学区・地区への情報提供、取組事例の共有化が図られ、コミュニティ活動の更なるクオリティの向上に結びつくこと期待されます。

### コミュニティのつどい 初のオンライン研修会

令和3年度「コミュニティのつどい」が、2月24日(木)午後2時から開催され、参加人数制限をしながら、初のオンラインによる研修会が行われました。

第1部は「Zoom実践研修」で、日立市デジタル推進課職員の渡邊さんを講師に、「Zoom」を使った会議への参加方法、主催方法など、実際の操作を交えて学びました。

日立市役所会議室をメイン会場に、金沢交流センターをサテライト会場として、23コミュニティはいずれかの会場で受講、「Zoom」



ZOOMを勉強

環境が整っている交流センターは自分たちの交流センターで研修しました。

メイン会場には10コミュニティ、サテライト会場には9コミュニティ、中小路、塙山、大みかななどは単独で受講。Zoomのダウンロード、インストール、会議への参加方法など、いつでもオンライン会議ができるようになり、今後の活

動に生かされていきます。

第2部はオンライン研修会で、宇佐美吉郎さん(日高学区市民自治会事務局長、市連合民生委員児童委員協議会会長)による講演が実施されました。宇佐美さんはコミュニティ、民生委員の両方の立場から、災害時における避難行動要支援者への対応などについて、コミュニティと民生委員の連携、協力の重要性やそれぞれの役割について話しました。

各会場ではコミュニティ、福祉関係者、民生委員などが熱心に研修、コロナ禍での研修方法としては大成功、今後の活動体制の一つとして期待されます。

## コミュニティ活動って何だろう 身近な課題を一緒に解決しましょう

今回からこの「こみこみ」が全戸配布されます。これを機に、改めてコミュニティ活動について紹介します。

コミュニティの活動は、地域の人たちが、「地域を住みやすくしよう、快適にしよう」という共通の目的を持ち、地域の特色を生かし、創意工夫を重ね、地域が抱えている課題を自らの手で解決していくとするものです。

さらに、地域の人たちがきずなを強め、理解し合える人間関係を構築するために行われています。

コミュニティは、市とまちづくりのパートナーとして、協働で事業を行うなど、地域が抱える課題を解決するという役割を担っています。

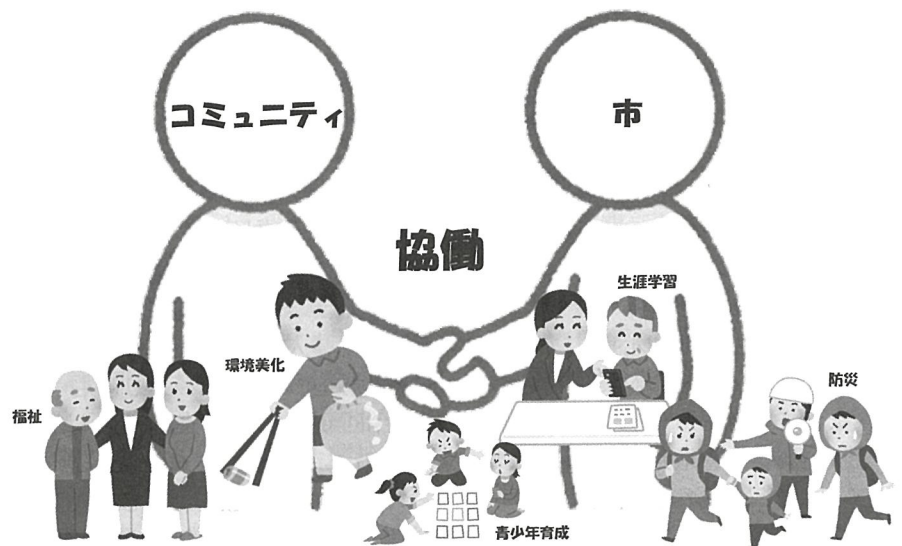
例えば、地域の人々がきずなを強めるための情報発信、事業の実施、災害時には地域の中心となり地域内の連携を図り、住民とともに地域の安心、安全をリードしていく役割を担っています。さらに、地域の声を公的機関(市、小・中・

特別支援学校、消防署、警察署など)へつなぐことで、コミュニティとの協働に発展させる役割も担っています。

また、日立市内23か所に設置されている交流センターは、各コミュニティの活動拠点となっています。コミュニティが実施する環境活動、子育て、地域福祉、生涯

学習、地域の情報発信、ごみの出し方、市報に関する事など、様々な相談窓口になっています。

コミュニティ活動に参加するきっかけの場にもなっています。皆さん、最寄りの交流センターへ一度出かけてみてはいかがでしょうか。何か楽しいことが起こるかもしれません。



### 市報の全戸配布から6か月 23コミュニティと市の協働体制

令和3年10月5日号の市報から全戸配布が始まり、6か月が経過しました。

市報は市民に市の情報を伝える重要な媒体であるため、すべての世帯に配布することとなりました。また、市報の全戸配布の体制が整うことで、コミュニティ情報も地域の全世帯に届けることが可能になります。これまで以上にコミュニティ活動情報を広く知らせることができることで、コミュニティへの参画意識の醸成などにつながることが期待されています。

全戸配布に向け、各コミュニティは、①事業者が配布、②これま

でと同様に町内会を通じて配布③各コミュニティが募集した配布員が配布、の3つの配布方式のいずれかを選択しました。

昨年12月、3か月の実施状況をもとに、広報戦略課から、課題や今後の対応などについて、各コミュニティに報告がありました。

概ね市内の全世帯に市報が配布できるようになりましたが、スタートした10月は広報戦略課に市民から多くのお問合せがあったとのことでした。

主な内容は「市報が届いていない」「2世帯なので2部ほしい」「市報を配布しないでほしい」などです。一方、「家に届けてもらえてうれしい」「交流センターまで取りに

行なくてよいので助かっている」などの声もありました。これらの声は、各コミュニティ窓口にも寄せられています。

課題と今後の対応については、今後も安定して全戸配布を継続するために、漏れなく配布する手法や配布員の確保などが挙げられました。

また、令和4年度契約準備のため、配布方式の意向調査も始まり、各コミュニティでは、次年度の全戸配布方法を決定し、準備体制を整えています。

4月5日号市報から、令和4年度の全戸配布が開始となります。

## 災害は待ったなし 各学区・地区での自主防災訓練

自然災害は、国内どこでも意表をつくように発生します。そのため、防災の意識を常に高めて備えることが必要です。ここ2年、新型コロナウイルス感染症の影響により、防災訓練がなかなか実施できない状況が続いています。しかし、災害は待ったなし、即対応できる訓練が必要です。



テントを広げる様子

防災訓練は多人数が関わる大規模な訓練です。そのため、令和3年度は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら、規模を縮小するなどして行われました。そし

## 地域学校協働活動 円滑に進めるための橋渡し役設置

日立市は、「地域とともにある学校づくり」を掲げ、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を、令和3年度から全小中学校に設置しています。

コミュニティ・スクールをより充実させるため、これまで、地域の各団体が、それぞれに学校と連携・協働していたことを、多くの地域人材がゆるやかにつながり、必要に応じて連携・協働するしくみ(地域学校協働活動)になるようにしていきます。

地域学校協働活動は、地域住民、保護者、PTA、NPO法人、民間企業、機関等の幅広い人たちが参画し、地域と学校が、相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を指します。

て、学区ごとに、市、消防署、コミュニティなどの緊密な連携を主眼に置き、避難訓練、消火訓練、さらに、避難所の運営体制づくりが実施されました。

### 【諏訪学区】

避難所開設訓練に加え、避難行動要支援者の安否確認を実施しました。訓練のねらいは、①要支援者に自助活動を促し、被害者の軽減を図る、②救助等支援体制の推進を図ることです。民生委員など、多くの関係者にご協力をいただきました。

### 【中小路学区】

新型コロナウイルス感染症に配慮し、規模を縮小して開催しました。午前8時、大雨洪水警報発令(高齢者等避難レベル3)を想定した訓練です。さらに、中小路小学校全児童へ、オンラインにより、訓練内容を伝えました。

各訓練による体験は、災害時に必ず活かされることでしょう。

具体的には、昔遊び、図工や家庭科等の学習支援、郷土学習、地域連携学習、職場体験学習、読み聞かせ、登下校時の見守り、部活動支援、放課後子ども教室、地域防災訓練などの様々な活動です。

今後、地域学校協働活動が円滑で効果的に実施されるよう、地域と学校との橋渡し役として、「地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)」の育成に取り組みます。また、人選はコミュニティ・スクールで行うことになっています。

### 地域学校協働本部とは

地域と学校の連携のため、より多くの幅広い人たちが参画し、ゆるやかなネットワークを形成して、地域学校協働活動を進める体制。コーディネート機能や多様な活動、継続的な活動の3つの要素をもっています。

## 久慈川・茂宮川の洪水氾濫に備える避難タワー

日立市南部を流れる久慈川・茂宮川が洪水で氾濫した場合、緊急避難できる施設が整備されました。6号線脇、神田町に鉄骨造2階建ての避難タワーです。2階は約100名収容の待避所で備蓄ロッカーを備えています。屋上は、地上9.7m、緊急救助用スペースです。



建設の様子

また、久慈川日立南交流センターには屋上への避難階段が完成。さらに、留大橋に登る避難階段やJR常磐線久慈川鉄橋脇の津波避難所には備蓄ベンチが設けられます。安全なまちづくりに向けて整備が進められています。

## まずは地域を知ることから! 市職員コミュニティ活動体験研修

今年度も、日立市職員を対象とした「コミュニティ活動体験研修」が実施され、80人の職員が、各コミュニティの自主防災訓練や日立の魅力再発見ウォークなどの活動に参加しました。

また、例年は、新任職員による研修でしたが、今年度から、市の業務遂行の中心的な役割を担う監督職員も研修に参加しました。参加した職員からは、「もっと防災に対する意識を高めなければならないと感じた」「とても楽しかった」など、活動の大切さや楽しさ、課題などの様々な意見が出されました。

市職員として、また、地域住民の一人として、コミュニティについて考える貴重な機会になりました。



## 【塙山学区】子ども書き初め展 ～小さな芸術家たち～の作品

2月12日(土)午前10時から午後5時まで、塙山交流センターを会場に、「塙山学区子ども書き初め展～小さな芸術家たち～」を開催しました。



上手に書けたね

今年で2回目のこの事業は、児童の作品作りへの意欲や表現力、豊かな心の育成を応援することを目指しています。

日本の正月行事である書き初めを塙山小全児童が体験し、塙山学区が進めるこの事業に応募してもらいました。

1月に学校の授業として行われた書き初め会の作品の中から、指導された書道の先生や学年の先生たちによって、交流センターに展示する作品を審査、1年生は6点、

2年生から6年生は各クラス5点選ばれて総数56点の展示となりました。塙山学区住みよいまちをつくる会から最優秀賞、優秀賞、優良賞とともに全児童に参加賞が贈られました。

この作品展には、地域で応援している絵画クラブの児童の作品や、各種の学習支援活動の写真を展示、学校と地域の連携事業の一端を地域の人たちに知ってもらう機会を創り、コロナ禍で様々な行事が中止になる中で、児童の作品発表の場の創設は、児童を応援することにもなっています。

## 【会瀬学区】こころ豊かに育む 青少年育成事業「会瀬浜太鼓」

会瀬学区コミュニティ推進会生涯学習部では、平成24年7月から「こころ豊かに育む青少年育成事業」の一環として、会瀬浜太鼓の活動を支援してきました。同団体は、地元伝統文化であると同時に、老若男女が祭りなどを通して「人の和、地域の輪」を広げ、地域の絆も強めることができることを願い活動してきました。

打ち手募集対象は、会瀬小2年



浜の焚き上げ祭で披露

生～6年生。現在は児童29名、中学生5名、保護者2名が参加しています。スタッフ4名、指導者2名で中学生が練習のサポートを行います。月2回、第1・3土曜日の午後5時から6時まで、会瀬小体育館で実施しています。

地域行事「おおせ夏祭り」「三世代敬老の集い」「おおせ秋まつり」「新春交流会」「浜の焚き上げ祭」などで数多く披露していましたが、コロナ禍で披露することができずにいました。

1月15日(土)、会瀬小の土曜授業として、会瀬青少年の家グラウンドで行われた「第32回浜の焚き上げ祭」に参加し、全児童と中学生2名が久々に練習成果を披露、お焚き上げをバックに緊張しながらも、地域の人たちの前で力強く打っていました。

## 【中里学区】伝統行事 まゆ玉づくりにチャレンジ

令和3年度は中里中学校の新築工事のため、学校のグラウンドの使用ができず、「どんと火祭り」は中止となりましたが、1月16日(日)、中里交流センターの庭で、地域の伝統行事継承のために、中里学区コミュニティ推進会の青少年育成部主催の「まゆ玉を飾ろう」が行われました。

コロナ禍での子ども対象の行事であることから、主催者から行動について、よりきめ細かい説明を



親子でまゆ玉づくり

を受けて開始されました。

初めの会では、石川諒一会長から、まゆ玉をミズの木、ナラの木、カシの木などに飾り、五穀豊穡と無病息災を願う古からの風習につ

いて説明を受けました。

その後、センターの庭では、昔ながらの方法でもち米をふかし、杵と臼で紅白の餅をつき、丸めて枝に巻き付ける作業を行いました。子どもたちは重い杵に振り回されながら餅つきにも参加、家族と一緒にまゆ玉飾りにチャレンジ、できあがったまゆ玉は、交流センターに飾るとともに自宅用も作られました。

また、わた菓子機も用意され、子どもたちは楽しい冬晴れの1日を楽しみました。